千葉県立病院の経営状況について

令和４年１月18日
病院局経営管理課

１　県立病院の経営状況（令和２年度決算）

（全体概要）

○　令和２年度の決算は、収益合計485.5億円、費用合計507.8億円、当期純損失22.3億円となり、損失額は前年度より8.5億円縮小したものの７年連続の赤字決算。

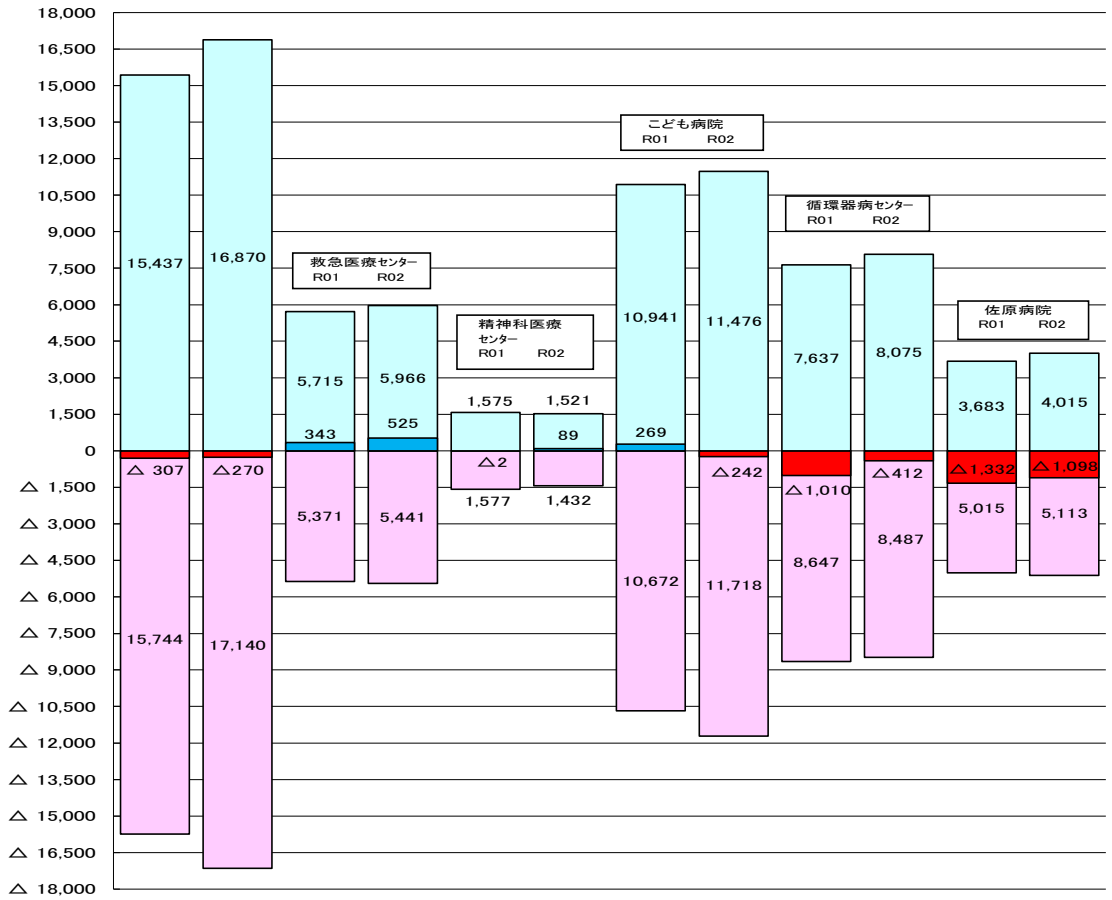
○　令和２年度は新型コロナウイルス感染症関連の補助金収入が20億円ある一方、薬品費（7億円）や人件費（5.4億円）が増加。

○　令和２年度末に資金不足が生じるとして、37億円の長期貸付金を受ける。

○　令和３年度当初予算について、経費の一部を留保。
（改革プラン（案）が示された後、令和３年９月議会において補正計上）

区分	令和２年度	令和元年度	増減額	増減率（%）
医業収益　A	31,884,351	31,618,416	265,935	0.8
医業外収益　B	16,246,552	13,477,010	2,769,542	20.6
特別利益　C	419,214	365,784	53,430	14.6
収益計　①（A+B+C）	**48,550,117**	**45,461,210**	3,088,906	6.8
医業費用　D	47,822,888	46,178,633	1,644,255	3.6
医業外費用　E	2,625,664	2,361,156	264,508	11.2
特別損失　F	333,864	2,738	331,126	12,093.7
費用計　②（D+E+F）	**50,782,416**	**48,542,527**	2,239,888	4.6
経常収支　（A+B）－（D+E）	△ 2,317,649	△ 3,444,363	1,126,715	
純利益（損失）　①－②	**△ 2,232,299**	**△ 3,081,317**	**849,019**	

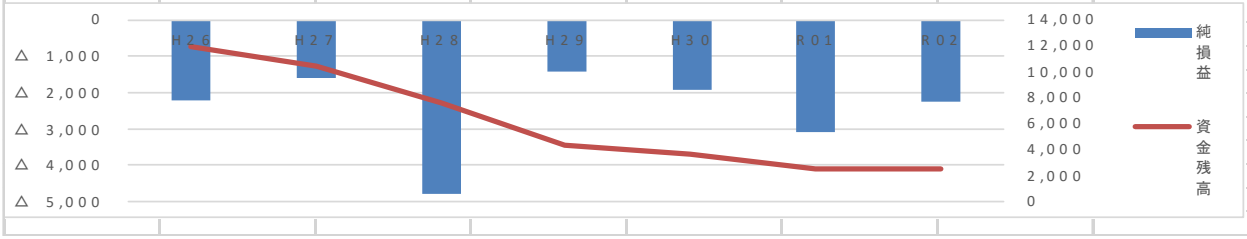
	がんセンター	救急医療センター	精神科医療センター	こども病院	循環器病センター	佐原病院
経常利益	△258	＋498	＋89	△231	△507	△1，086
純利益	△270	＋525	＋89	△242	△412	△1，098



資料１

純損益と資金残高の推移

	H26	H27	H28	H29	H30	R01	R02
純損益	△ 2,204	△ 1,605	△ 4,758	△ 1,423	△ 1,895	△ 3,081	△ 2,232
資金残高	11,909	10,409	7,608	4,371	3,646	2,494	2,548



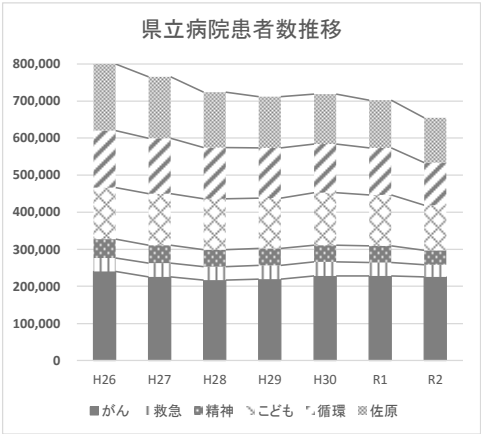
※単位：百万円　　なお、令和２年度は年度末に 37 億円の長期借入金を受けた後の残高

２　経営分析

（１）患者数の減少

○　H26～R1(5 年間)：延患者数▲約 9.7 万人
　　R1～R2(1 年間)：　〃　　▲約 4.8 万人

○　新型コロナウイルス感染症によるところもあるが、患者数の減少が経営に大きく影響しており、通常医療に戻った際は速やかに患者確保を図る必要がある。



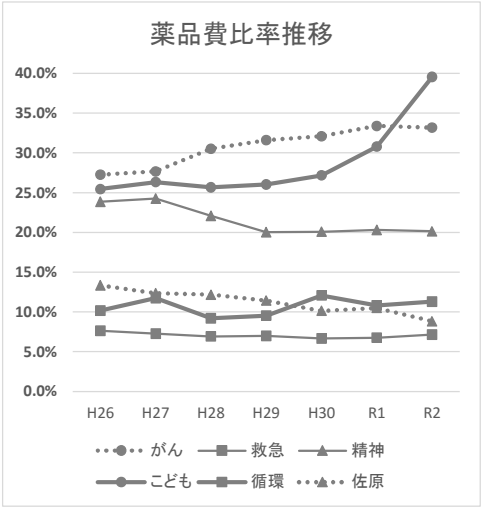
＜患者数と病床利用率＞　　（単位：人、％）

	平成 26 年度 A	令和元年度 B	令和 2 年度 C
延患者数	799,516 — —	702,381 (B-A) ▲97,135 (B-A)/A ▲12.1%	654,371 (C-B) ▲48,010 (C-B)/B ▲6.8%
病床利用率	76.9%	70.1%	66.1%

（２）材料費比率の上昇

○　医業収益に対し材料費（特に薬品費）の比率が大きく上昇しており、利益率が悪化している。

○　現在、薬品調達の見直しを行っているが、高額薬品（先発薬）を用いる医療のウェイトが高くなっていることが経営（収支）悪化の一要因と思料する。



＜材料費比率の推移＞　　（単位：百万円、％）

	平成 26 年度 A		令和 2 年度 B		増減額	増減率
	金額	比率	金額	比率	B-A	(B-A)/A
医業収益	31,805	—	31,884	—	79	2.5%
薬品費	6,330	19.9%	8,414	26.4%	2,084	32.9%
診療材料費	3,836	12.1%	3,910	12.3%	74	1.9%

○　改革プラン（案）でも述べたが、「患者数減少」と「材料費（医薬品）比率上昇」が、経営（収支）悪化に大きく影響しているものと思料する。

○　今後、原価計算システムにより、患者数の確保が少ない部門（固定費（人件費）で赤字）と限界利益率の低い（材料費を控除するとほとんど利益が残らない）部門を中心に、これらが経営にどのように影響し、今後、どのように収益確保を図るか対策を講じることとする。